

もし、こういった事態になった場合は近くにすぐ相談できる人がいる社会が必要です。ボランティアスクール等の地域の取り組みが実を結ぶことに少しでも協力できたらと思います。

雀部地区人権講演会 7月9日

T. M

雀部地区人権講演会で、東日本大震災の復旧・復興のために福知山市役所から石巻市に派遣された足立氏の講演を聴きました。震災の無惨な爪痕の映像とともに語られた言葉は、「助けられる命は助きたい！」ということだった。

映像の中には、泥にまみれた幾多のランドセルがあった。朝、元気に「行ってきます！」と出かけた子どもは、二度と我が家に帰ることはなかった。命の大切さを痛感した。全ての人たちの命を大切に、普段から突然の災害に対応できる備えが必要だと感じた。

人権講演会 7月9日

S. J

毎年各地で発生する災害、その映像を目にして自然の力に恐怖を覚え、悲惨な状況に胸が痛む。

東日本大震災の直後のボランティアはもちろん、その後2年間志願して石巻市へ派遣され復興支援にあたられた足立さんの講演があった。自分の思いを行動に移す足立さん。その足立さんと共に2年間の移住を決められたご家族。その決断力に頭が下がる思いだ。

2年間の派遣中に感じた地元の方の復興に対する熱い気持ちや人柄などを紹介され、突然の災害時にも守れる命は守りたいと力強く語られた。

中でも心に残ったのは、豪雨により福知山の市街地が冠水。福知山市役所が市民の対応に窮してノウハウを求めた時、石巻市長はマニュアルを送るのではなく職員4名の派遣を手配されたという事。

苦しみや悲しみを体験した人たちに真心を込めて寄り添えば、こんなに温かいつながりが生まれるのだ。

「リフレかやの里」視察研修 7月18日

I. S

今回、与謝野町障害者自立支援施設「リフレかやの里」に視察研修の機会を得て参加しました。

施設長の藤原さゆりさんによれば、本施設は8年前に倒産閉館後、平成23年に「社

会福祉法人よさのうみ福祉会」が指定管理者として再開し、レストランやホテル・大浴場・野菜果物の加工施設等を運営しています。

本施設の運営目的は、農福産連携による地域再生や障害のある人の雇用の場の創出、一般就労に向けた就労支援促進であり、その目的に沿って、レストランでは地元の新鮮な野菜を沢山使ったサラダや自家製ジュース・ジャムなどが並んでおり、メニューにも様々な工夫や努力が感じ取れました。

又、本施設では比較的障害の軽い方々がレストラン等の就労継続支援A型事業に13名、農産加工所やパン工房等のB型事業に9名が普段は従事されているそうですが、この日はクーラーのない過酷な作業環境で3名の方が野菜ジュースを煮沸加工しておられる場面を見学しました。

当施設は、雀部から40分足らずで行けます。ランチ・お風呂等、プチ贅沢が楽しめる穴場だと思います。但し、営業が月・火・土・日のみなので注意が必要です。

「リフレかやの里」研修記

K. S

峠を越え、SL広場には孫を連れて数えきれない程通いましたが、「リフレかやの里」の施設は全く知りませんでした。

近年、高速道路の開通や少子高齢化と人口減少、グローバル化など社会の動向が変化するなか、地域・地元の農産物を活用する農産加工所とパン・ケーキ工房を障害のある人が頑張っている姿に感銘を受けました。

施設長の藤原さんは、農産物加工方法を習得のために男女ともに長生きの長野県まで勉強に行かれたようですが、実は、私の故郷は……です。



